

ヤマトウキは、セリ科の多年草であり、根が生薬として用いられている。その葉は、2012年から食用可能となったことから、これまで葉を利用した食品や化粧品等が市販されている。生薬のトウキの根には、血行改善や身体を温める効果があるとされている。

そこで、トウキ葉を凍結真空乾燥後粉碎し、喫食時の品温約5°Cの軟水のミネラルウォーター100mLに0.5w/v%添加したもの（懸濁液）と同量同温のミネラルウォーターとで比較実験を行った。20°C65%の恒温恒湿室に被験者は入室30分経過後、手袋を着用し15°Cの冷水に1分間両手を浸漬した。その後すぐに手袋を外し、トウキ葉添加のミネラルウォーター（もしくは無添加のミネラルウォーター）を、時間をかけずに飲用し、サーモグラフ（株式会社アピステ製 FSV-1200）で被験者右手掌の皮膚表面温度、レーザー血流計（株式会社アドメック製レーザードップラーALF21FD）で左薬指の組織血流量を90分間測定した。測定は同じ曜日で同じ時間帯の2週にかけて行い、できるだけ測定条件が同じになるように、服装は変えずにかつ月経期間中を避け、実験開始2時間前は絶飲食とした。ミネラルウォーターのトウキ葉添加の有無は、ランダムに行った。なお、被験者は健康な女性4名（年齢40~48歳、BMI値20.2~25.0）とした。

図1に被験者Aの手掌表面温度変化を、図2に被験者Bの血流量変化を示す。その結果、個人差はあるものの被験者全員トウキ葉を飲用で皮膚温の上昇が見られた。指先表面温度は平均でトウキ葉5.1°C上昇、水では3.1°Cの上昇であった。血流量では、水と比較してトウキ葉は約2.2倍の増加が認められた。何れの被験者でも90分間まで持続する効果は確認できなかったものの、皮膚温上昇と血流量の増加が認められた。このことにより、トウキ葉に皮膚温上昇の効果が期待できると推察される。